

平成 19 年 6 月 30 日（土）～7 月 1 日（日）おやじ東京・甲斐大和合宿

「おやじ東京のこれまで・これからを語ろう！」議論の骨子

【参加者】脇山、石綿、加藤、石橋、江川、小池、馬場、小菅、石川、我妻、前田（純）

- もともと治安対策本部と一緒に立ち上がった時は活気があったのに、だんだん寂しくなっているのは残念。運営委員会が一定の規模で継続して活動することが大事。地域で熱心に活動している人が、毎月の会には日程的に来られない状況。会議の持ち方を工夫して、年に 3 回くらい地域のおやじの会からの報告を聞く時間というか、発表会のような機会を設けてはどうか。
- 新しい人も参加して、20～30 人位は参加してくる状況にしたいのは同感。
- 現状の「運営委員会」形式だと、敷居が高いと感じる人もいるのではないか。（運営委員という立場がないと、議論に加わりにくい印象？）新たにきた人も入りやすいようにテーマを別途設定して、自由に発言できる場を設けてはどうか。
- 地域のおやじの会としては、活動のノウハウを聞きたいというニーズもある。地域の会による活動報告の時間を設けてもよい。あらかじめ打診して、複数の会から発表があるなら、たとえば土曜日午後に別企画として報告会を設定してもいい。
- もともと役員会と区別する意味であり、運営委員会という名称にこだわる必要は、それほどない。情報交換会でも、連絡会でもよい。

【結論】参加しやすいよう、従来の「運営委員会」を「連絡会」に改める。当面は暫定的な名称として用いて、いずれ規則に反映させる。地域の会の活動報告を導入する方向で検討する。キャンペーン、シンポジウムなどは無理に大会と一緒にせず、地域の取り組みと連携して（バーベキュー大会との連携など）企画を検討する。

- おやじ東京のロゴについては、おやじの会のネットワークをつなぐというイメージを訴えるのが大事。名刺などに使った印象や、様々なスローガンとの併用のしやすさや色の使いやすさなども配慮したい。
- 一つのデザインと固定しなくとも、色々試して場面によって使い分けしてもよいのではないか。

【結論】名刺デザインとして用意された「ハートネットワーク東京」のデザインを使用する。これにおやじ東京のスローガンなどを併用して、当面活用していく。

- おやじの会は、子どもを守るとか、青少年の健全育成に関わるネットワークという位置づけを明確に確立すべきではないか。

- 立ち上げの時に都の治安対策本部から竹花さんが来て応援してくれたことから、おやじ東京が始まっている。そういう意味でスタートは健全育成。
- 健全育成なら育成を柱にするとか、おやじ東京の位置づけをはっきりさせて、目的（目標）を達成するための戦略手段を考えていくべきではないか。
- 健全育成については、青少年委員・児童委員・地区委員など様々に関わる人がいるが、それとおやじの会は違う。そこにあるのは、「おやじ学ぼう」という考え方ではないか。
- おやじ東京会長として関わっている東京都の会議が4つある。心の東京革命推進会議、東京都安全安心まちづくり協議会、東京子ども応援協議会、中学生の職場体験推進協議会といずれも青少年・治安対策本部が事務局。これだけの大きな会議に、法人格がない立場から関わっているのは、おやじ東京だけ。それだけ健全育成関連の取り組みの中で期待されているということ。
- 実際に地域で役割を果たしている立場で、胸を張っていけばよいのでは。おやじの会って何かを聞かれた時に、一言で大義名分を表せるような言葉があるといい。
- 「青少年健全育成」は、否定し得ない共有の言葉ではないか。たとえば「青少年健全育成推進中ー私達は地域で活躍するおやじの会を応援しています」とか。会のサポートやOB支援は、必然の機能・枝葉・各論であり、具体策が表面に出すぎると幹が見えなくなるのではないか。
- 「83運動」は、8時と3時が強調され、そこで誤解されている面もある。実は幅広く「まちで子どもを育てよう」という趣旨なのだ。単に登下校を見守る（安全確保）だけではない。いつも子どもを思いやり、明るい笑顔を求めて四苦八苦する心やさしい“おやじ”が、地域の「ハチさん」として、様々な時間帯に様々な活動をするのが、「ハチさん」運動の本質ではないか。
- 「おやじの会」は、子どもの健全育成だけでなく、父親が地域に関わり、地域に自分の足場を作り、地域づくりをするという側面もある。従来型の健全育成団体とは違うというか、一線を画したい思いがある。
- 健全育成というと、もっぱら青少年とその周辺に問題があるのを何とかしようという視点になりがち。今はむしろ、大人の側に様々な問題がある。何より、仕事中心になりがちな父親が、もっと家庭や学校に関わることから始めて、地域との関わりを見出すことに、おやじの会の重要な意義の一つもあるのではないか。

【結論】おやじ東京の活動スローガンとして、「家庭や地域にかかわろう！子どもをのびのび育てよう！」を使う。これに加えて、おやじ東京が関わっている東京都の4つの会議を名刺の裏側に載せて、青少年の健全育成活動に貢献していることを示していく。

- 地域の行事手伝いについては、船堀二小（9月8日）、大江戸舞祭（9月8・9日）、

世田谷おやじと子どもフェスタ（9月16日）など、参加可能なメンバーが分担して取り組むことになった。このほか、杉並の井荻（？井草）区民センターまつりの行事に、おやじ東京の応援について打診があり、今後協議していく。なお、おやじ東京としての収益活動について、参加者の調整などは事務局が一元的に取りまとめる方向性が確認された。また、手伝ってくれた人に対する交通費の実費弁償など、ルールが必要との意見があり、今後具体的内容を検討していく。

- 次世代育成のための取り組みとして、学校における職業講話への参加は各自が既に行っているが、そのほか「おやじと語ろう！仕事のこと」のような取り組みは、今後とも呼びかけがあれば、おやじ東京として協力していく方針を確認した。